ねじりはちまき

謹賀新年

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
旧年中は、大変お世話になりました。誠に有難く厚くお礼を申し上げます。
　本年も相変わらずご厚誼の程をよろしくお願い申し上げます。

　皆様には、滞りなく良いお年をもらったこととお慶び致します。
お正月は新しい年が始まる月ということと、１年に１度の「年神様」が訪れる特別な月ですね。
　年神様は新しい年に「実」をもたらし、人々に命を与えてくれる神様であり、またご先祖様でもあると考えられて来ました。
このご先祖様が、春には里に降りて来て田畑の神となり、秋の収穫が終わると山に帰り山の神となり、正月には年神様となって戻って来る、と伝えられています。有難いことですね。

　今年も元気で、朗らかに暮らしたいと思います。
どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

幸田　常一

❄❄❄

平成３０年が過ぎて行きました。
「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまりたるためしなし。」
流れの中にある自分は…。
昨年は多くに迷い、さまよいました。それとは反対に多大な事をやらせていただき、価値あるちえを教わりました。
とてもいい１年だったなあと思います。
これからの無常の中にも楽しみをあじわえる様に過ごしたいなあと、新しい年に期待したいと思います。
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

代表取締役　幸田一二

☆☆☆

昨年は大変お世話になりました。ありがとうございました。
自社に入社し、今年の４月で１０年になります。
専門学校を卒業して１０年…早く感じます。
新築やリフォームなど色々な経験をさせていただきました。

本年も気持ちを新たにして、真剣に取り組む所存でございます
ので、変わらぬ御指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大工部総括　　渡辺正吾

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

明けましておめでとうございます。

昨年は何かとお世話になりまして、ありがとうございました。
お陰様で良き新年を迎えることができました。
本年も昨年同様頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

土木部総括　　国分　務

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

明けましておめでとうございます。

入社して約１年が経ちました。
まだまだわからない事ばかりですが、お客様の満足いく仕事が
できるよう、今年も頑張っていきます！

本年もよろしくお願い致します。

建築土木・塗装　　佐藤朋彦

昨年もお世話になりました。

毎年のことながら、年々１年があっという間に終わってしまうように感じます。

さて昨年は、除染作業が終わりまして、久々の建築の現場に戸惑うことも多かったように感じます。新築の現場も担当させていただきましたが、金物や建材や工具などの進化に驚いたり、感嘆したりを楽しませていただきました。また、関連業者の方々にも久しぶりに再会した方も多く、いろいろ相談し助けをいただき、ようやく感じを取り戻せてきたかなといったところです。

本年もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

常務取締役　　鈴木信義

昨年も大変お世話になりました。

私事ですが、今回も自宅で飼っている黒ネコの話しをしたいと思います。２年目にもなりますと、佐藤家の事をよくわかってきたようで、この場所に行けばこれがもらえる、この人間（父）にはこれをしてもよいがこれはダメ、でもこの人間（母）には大丈夫という感じで、場所や人をよく見ていて理解しているんだなと思いました。

なんとなく、言葉も理解しているのかな？と思うような事もあります。ネコの気持ちがわかったらいいのにな…と思う事もありますが、想像するのも楽しいです。

本年も、仕事も私生活も頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

設計総括　　佐藤美穂

明けましておめでとうございます。
昨年中は大変お世話になりました。

さて、佐藤美穂さんの家には大きな黒ねこの「チビ」がおりますが、私の家にもねこがいるんです。息子の知り合いのお宅で1･2匹も生まれ、次々もらわれて行き、最後の子ねこ２匹を（オスとメス）幸田家の家族として迎えました。昨年の秋のことでした。

メスねこの名前は「ベニ」。オスねこの名前が「マル」。そうなんです、２匹合わせて「ベニマル」です。近所のヨークベニマルの駐車場で待ち合わせをしねこをもらってきたから、だそうです。６歳の孫が名付けました。

ベニは茶のトラねこで、とっても美人さんです。でも結構気が強くて、犬のぽんたにもパンチする程です。マルも茶のトラです。とても活発で家中を走り回っています。頭もよくて、あっという間にドアの開閉を覚えてしまいました。

家にはねこ２匹、犬１匹、金魚５匹、そして私たち家族８人。
小動物と一緒の暮らしは楽しいことばかりではありませんが、疲れて帰ると出迎えてくれたり、顔を近づけて来て時にはチュッとしてくれたり、大きな癒しになっています。金魚も水槽のふたをトントンすると寄って来ますし、金魚も金魚で癒しになってくれています。

いつまでも一緒にいられたら、どんなに幸せでしょう。
これからも、小動物との暮らしを楽しみたいと思っています。

本年も幸多き年でありますよう、お祈り申し上げます。

事務　幸田久美

✿✿✿

夢を見続ける男　NO５７

日本人の信仰の不思議

このようなテーマを掲げると何事かと思われるかも知れない。ここで日本人といっても日本人の大半はというのが正解かも知れない。そもそも信仰といってもいろいろな宗教があるからその定義も違ってくるだろう。今回取り上げる信仰は、いわゆる無宗教と称する人に関することになるかも。つまり、無宗教と称しながら、神社のお参りをし、仏閣にもお参りするという人達のことである。家内安全・商売繁盛のお蔭を求めると同時に敬意もきちんと払っている。そして「朱印状」なるものをいただく（集めるのが趣味の人も）。でも、この在り様が日本人大半の神仏観即ち信仰を象徴しているのではないかというわけである。

大部前であるが、NHKテレビが日本人の信仰をテーマに取り上げていたが、その神仏観を解くキーワードが「神仏習合」である。本地垂迹説として登場することもある。聞いたことがあるだろうか。日本史の教科書の片隅に登場しているかも知れない。でも、それが何たるかの詳しい説明はされていないと思う。そこで今回は「神仏習合」という考えが日本で何故誕生したのかを見てみたい。それは、単なる神仏のごっちゃまぜなのか、それとも日本人の神仏への深い想い（無意識的に）があってのことか、窺い知ることができれば幸いである。余り関心のない人もいると思うがお付き合いいただければ有難い。

日本人にとって「神観」はどんなものだったのか。今日のいわゆる「神社神道」が形をなすずっと前のことだ。歴史的に言えば、いわゆる神話の時代である。西欧の「ゴッド」という観念はなく、「隠り身」なる神が自然の万物に身を現わす、言い換えれば自然万物に神宿るという　　観念だ。勿論そのころは神社という建物はなかった。祭祀はどこで行われていたのか。樹木が林立する林の中か、大きな岩場のある所か、滝のある所か、紙垂（かみしで）を下げた注連縄（しめなわ）を張って、その中で神官（巫女）が神のお告げを聞くというイメージだろうか（そういう祭祀跡が遺っているところがある）。そこまでいかなくても、日常的に庶民は、山ノ神、水ノ神、火ノ神、田ノ神など自然の恵みに感謝し、その恵みをもたらす諸々の神を祀っていたことであろう。多神といえば多神を信仰しているように見えるが、それら自然の恵みに共通する「不可思議なる存在」を感じ取っていたのであろう。言い換えると、理屈によってというよりは無意識的に自然界のメッセージを感じと取っていたといった方がいいかも知れない。そういった信仰というか祭祀が永く続いたところへやがて仏教が大陸から朝鮮半島を経由して伝来するのだ。公伝としては、６世紀半ば欽明天皇時代に百済（朝鮮半島）の聖王から伝えられたというが、この公伝以前に実は渡来人によって私的信仰の形で伝えられていたようだ（蘇我氏がいち早く受け入れ、氏寺を建立）。いずれにしても、礼拝対象としての仏像があり、教義を説く分厚い経典がある。その当時の日本にとっては驚天動地の事態であったことだろう。欽明天皇に贈られた仏像は小さいながらも金ぴかであったというから、何とも言えない荘厳な威力を感じたと思われる。つまりは当時の日本にとって新しい文明の訪れを感じさせたというわけだ。その後蘇我氏と物部氏（受け入れ反対）の論争もあるが、聖徳太子の尽力により仏教を受け入れる土壌ができる。そして天皇も仏教に帰依し、やがて仏教による国家鎮護のため聖武天皇（８世紀半ば・奈良）の時代に全国各地に国分寺が建立されるとところまでいくのである。一方、神社は仏教寺院の影響を受けて神々を祭祀する建物形式が整えられていく。

ところで、神仏習合の話だが、その発端は「東大寺」にあるとのこと。同じ聖武天皇によって東大寺が建立され、廬舎那仏像（奈良の大仏）が開眼される。この東大寺の境内に実は大仏の守護神として「宇佐八幡神」が祀られている。その由縁は、大仏建立には多くの金属を要したが、そのうち金については国内になく、大陸から輸入しなければならない状況にあったのだが、使節が大陸に赴こうとして宇佐（大分県）の八幡宮に寄り、八幡神に祈願したところ国内から金が産出されるとの託宣があり、その通り陸奥の国から金が産出され、朝廷に献上されて大仏建立は無事成就したとのことである。そして八幡神は大仏の

守護神となり、手向山八幡宮として祀られた次第である。次も同じ奈良時代のこと。奈良の興福寺と春日大社の関係である。この二つは藤原氏の氏神社、氏寺であって隣接している。今もお正月には興福寺の僧侶が春日大社の社前で般若心経を読経するというのだ。では双方の関係はどうなのか。そもそも双方とも藤原氏のもとにあり、関係は良好であったが、神仏習合が進む中で神社が寺の守護をなすとみられるようになり、終に本地垂迹説の登場により興福寺の「不空羂索観音」が大社の祭神「タケミカヅチノ神」の本地仏とされるに至った（８１３年・平安時代）。つまり、神社の祭神は寺院の仏の化身とみなされるようになったのである。神仏の関係は一体になったと言えばそうだが、見方によっては上下関係ができたようにもみえる。これは全部が全部そうなったわけではない。神仏ともに祀る緩やかな神仏習合がほとんどで、その後明治初期の神仏分離令（廃仏毀釈）がでるまで約１千年続くことになる。神社に仏像が安置されるのがごく普通に見られたのである。

この明治の神仏分離令に関連して一つの例を紹介したい。それは延暦寺と山王（日吉）大社の関係である。最澄が比叡山に天台宗・延暦寺を開いた時、地主神の大山昨神・大物主神を守護神として祀ったのが、山王信仰の始まりとされ、やがて神社も創建される。山王祭りには延暦寺の僧侶が神前で読経するし、祭りの神輿担ぎには僧侶も参加していた。しかし、神仏分離令によりこれらの延暦寺の僧侶の行為はご法度とされたのである。しかし戦後大部経ってから復活し、現在は神仏習合的関係が保たれているということである。

さて、これまで神仏習合なるものの一端をみてきたが、冒頭に触れた大半の日本人の信仰とも異質のように思える。つまり、仏と守護神との関係、本地の仏とその化身としての神との関係とみる、そういう神仏習合ではなさそうだ。神仏が対等というか、同列というか、分け隔てがないというか、そういう風に神仏を捉えている信仰と思うが、いかがか。そこで調べたら、神宮寺というのがあったという。神社に付属して建てられた仏教寺院や仏堂のことをいう。神仏習合の思想に則り平安時代に全国各地に見られたようだ。例えば鎌倉の鶴岡八幡宮は、そもそも八幡宮寺であったということ。これも明治の神仏分離令を受けて神社のみの祭祀に戻して現在の形になっている。いろんな動きがあったものである。

何も結論じみたことを言うつもりはないが、神仏習合というのは、神様と仏様が共存できるような信仰形態をさすと言えようか。良く言うと、日本人の宗教意識の柔軟さを表わすとも言えるし、悪く言うと、ゴッチャまぜでわけがわからないとも言える。いずれにしても、西欧の歴史に見られるような宗教戦争は起きない。それはいいことだ。考えてみれば、神も仏もいろいろ名称があり、効能・働きがあるが、ずっと元を辿れば「一つ」なのかも知れない。神仏習合は日本人の多くが無意識の世界でそのように捉えている表れなのかも知れないと思ったりするが、どうだろうか。今回はこれで終わりとしたい。

大名倉山から初日の出を拝む

【今回登った山の概要】

大名倉山（おおなぐらさん、標高 575m）、地元では名倉山（なぐらやま）とも呼ぶ。福島県のへそのまち・本宮市と大いなる田舎・大玉村の境に位置する里山で、自宅のある南東側から見た山容は花の百名山・北海道の富良野岳（1912m）に似ている

名倉山は、我が母校旧本宮二中、子供達の母校五百川小学校の校歌にも歌われている

当地域のシンボル的な山だ。ただ、「うつくしま百名山」には選定されていない。

12 月中旬に新聞折り込みで、初日の出の写真を背景に、

「名倉山　元旦登山　平成 31 年元旦、大玉村の観光名所　『名倉山』から、初日の出を拝みませんか。」「日の出予想時刻午前 6 時 50 分」

というチラシが配布された。

名倉山には本宮、大玉の両側から何度も登っているが、初日の出を拝んだことはなかったので、今回は大玉側から元旦登山をすることにした。

○12／29　下見山行

自宅上空は晴れているが北の安達太良連峰は裾まで雪雲にすっぽり覆われていて、白いスクリーンを背景に黒々とした名倉山が主人公然と横たわっている。

自宅から車で 15 分、大玉村の標識に従い小姓内（こしょううち）屋敷を抜けると、ところどころうっすらと雪がある砂利道になりほどなく駐車場に着く。

14：15 出発、粉雪が舞ってきた。かつての作業道で幅広いが急勾配で両脇は荒れていて今は車は通れない。

15 分くらいで採石場跡地に着く。閉鎖後に育った木々の葉と草が繁茂しているときは隠れていたが、今は葉が落ち草も枯れて、採石跡地がよく見え、山頂付近まで切り崩した石の断崖は木も根付かない。これ以上採石すれば山頂の形状が変ってしまうところだった。（変ったという人もいる。）

我々もその利便性を享受している新幹線や高速道路の整備、都市の再開発など高度成長期を支えたのは地方の環境の犠牲の上に成り立っていた証だ。校歌にまで歌われたシンボルが損なわれたのだ。

大玉村が平成 16 年に整備した登山道はここから約 200m で、擬木の階段から始まる。道は採石跡地の左側にジグザグに付けられていて傾斜も緩く歩き易い。急な所は階段になっている。左側の谷を挟んだ本宮側のピークに立つ巨大な電波塔が木々の間から見えてくる。名倉山は当地方の通信環境にも貢献している

が、自然との調和という点からすれば難がある。当地域のシンボルでありながら「うつくしま百名山」に選定されなかった理由のひとつかもしれない。
14：47 本宮側からの登山道と合流し、14：55 山頂着。メモを取りながらの約 40 分の道のりだ。

誰もいない山頂は小広い平場になっていて、樹木のある南側と南西（会津）方面を除き眺望が開けている。高さ 1mに満たない石のお宮には鏡餅とお菓子とワンカップが供えられていた。今は花がない 2m×5m位の花壇、山頂標識、地元の山の会が設置したベンチなどがある。北側の安達太良連峰は雲の中、東から東南の阿武隈山系もところどころ雲に覆われている。北東側から南東にかけては広い田園地帯になっていて、杉やケヤキや竹に囲まれた「いぐね」のある屋敷が点在している。田園の間を縫って、東北本線・高速道路・国道 4 号線が通り、工場が張り付き本宮の市街地がある。新幹線はさらに東側を走っている。

大玉村は「日本で最も美しい村」連合に加盟していて「大いなる田舎　大玉村～いぐねのある風景～」を標榜している米どころだ。

下山は 20 分で駐車場に着く。準備の資材を持ってきた村役場職員の人と話をする。勧めによって役場に寄り参加申込書を提出する。保険に加入するとのこと。たまたま村長さんが見つけてくれて立ち話をする。

○1/1　初日の出山行

近くのお寺での大晦日 22：30 からの護摩法要、隣の神社での 1 日午前 0 時からの神楽奉納と餅巻き、慰労会、仮眠を取って 5：30 妻に送って貰う。暗い駐車場には既に 20 台以上が駐まっていた。

ヘッドランプを点し大玉村登山口 6：05 発、29 日の下見山行以後に降った雪が 2～3ｃｍ落ち葉の上にあり、地肌が見えるところは凍っていて歩きにくく、雪の部分を歩く。親子 4 人のファミリー登山者を追い抜き 6：30 山頂着。

山頂には既に老若男女の多くの人たちが日の出を待っていた。観光協会の方から暖かい缶の甘酒を貰い、寒い中でありがたい。聞くと 50 個以上配ったとのこと。本宮側からは電波塔に車を置くと 20 分もかからずに山頂に着ける。数人の知人と挨拶を交わす。

東南方角の阿武隈山系のスカイラインが赤く染まってきて、太陽は大滝根山（1192m、日本 300 名山、航空自衛隊のレーダー基地がある）の上から出るようだ。しかし日の出予想時刻の 6：50 になっても黒い帯状の雲が邪魔をして太陽が出てこない。太陽が雲の上に出てきたのは 20 数分後だった。100 人ぐらいの登山者の中で数人が万歳したが、一斉の万歳には広がらなかった。新春を祝い、家族・親戚・友人の健康を願い手を合わせる。

登山者は次々と下山していき、気がつくと 7 時半頃にはカレーらしい食事を作っている冬山装備の若者が一人残っていた。二本松の青年で週に 1 回は安達

太良を中心に山登りをしているとのこと。7：45、若者に先だち本宮側に下山する。電波塔の管理用も兼ねる舗装林道を麓まで下り、本宮市青田日記沢（にっきさわ）集落にある「岩井の清水」（＊）でのどを潤した。水は思ったよりも暖かく、地中深くから沸き出ているのだろう。

9：30 自宅着。平成最後の新年、山行初め、歩き初めを無事終える。

（＊）「岩井の清水」

本宮市教育委員会の説明板には、

○この清水は俗に「一益（いっぱい）清水」と呼ばれ、源義家が奥州征伐の途次、矢じりで岩を掘ったところ、こんこんと清水が湧き出したとの伝説。

○平安時代に編まれた「曽丹集（そたんしゅう）」に「安積の岩井の清水」の歌があること。

○本居宣長とも親交のあった江戸時代の本宮の豪商・国学者小沼幸彦翁は、その清水は安達の日記沢にある一益清水であることを考証した「岩井考」を表したこと。

○「岩井考」は白河楽翁（松平定信）の認めるところになり、幸彦翁が全国各地の交友者に岩井の清水を天下の名勝として紹介するとともに岩井の歌を募集した。

その中に、

「今もなほ　澄みてのこれり　いにしへの　人のむすひし
安積（＝浅香）井の水」　　という歌がある。

自分としてはこの歌を参考にして子供に名前を付けた思い入れのある清水だ。

そのほかに、「安達地方新しい旅実行委員会」の説明板や、「福島の水 30 選認定　おくのほそみち自然歩道　ふるさとの泉　岩井の清水」と書かれた説明板などもあり、もっともっと多くの人に訪れて欲しいところだ。

平成３１年１月　ＮＯ７５　　アンチエイジング　山旅遊人

東南、大滝根山上から登る初日の出

北、元旦の安達太良連峰、山頂には雲

＜会社近況＞

本宮市の現場で新築工事をお世話になっておりましたが、昨年末お陰様で完成しお引渡しをさせていただきました。
現在は新築工事現場の打合せをさせていただいたり、社内整備を皆で相談したり、しているところです。

１月７日、仕事始めです。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年１１月に住宅完成内覧会をさせていただきましたが、施主様のご厚意により今回も内覧会をさせていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。
床暖房完備で部屋の中はポカポカ暖かいです。外は寒いですが、暖かさを体験しにぜひいらして下さい。

・・・完成内覧会のご案内・・・「築生庵」という名前のちいさなお家です。

＜日にち＞　平成31年　1月　26日(土)・27日(日)
＜時　間＞　午前9時　～　午後16時

＜場　所＞　本宮市糠沢字東禅寺102－9

★簡単な地図でわかりずらいかも知れませんが、
ぐにゃぐにゃした山道をどこまでも
登って来て下さい。山道ですので
対向車輌には十分にお気を付け下さい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平成31年　1月　5日発行
有限会社　幸田建設
＜発行責任者＞幸田久美
〒969－1204
本宮市糠沢字八幡1番地1
電話、0243－44－3816

＜後記＞
明けましておめでとうございます。
1月7日より仕事開始させていただきますので、よろしくお願い致します。
（事務員k）